

アンダアセン自叙傳前奏三部曲「醜い家鴨の子」

「樅の木」及び「亞麻」について

「亞麻」は一八四九年、アンダアセン四十五歳の作品で、同年「祖國」誌上に發表された後、デンマアク語の原文による物語全集、H. C. Andersen Eventyr の五十一番目に収録されてゐる。

この全集は、殆ど著作年代順に配列して、すべて一五六篇を収めてゐるが、その中で比較的纏まつた彼の自叙傳物語が三つある。

第一は、全集の二十七番に収録されてゐる有名な繪巻物に稱せられてゐる彼の「醜い家鴨の子」である。これは一八四二年の夏、三十八歳のアンダアセンが、南シユーランの田舎を遊歴した頃の所産である。彼は六月三十日からギッセルフェルトに行つてゐるが、七月四日に、彼の脚本「梨の木の中の鳥」をはじめて上演したところが、叱聲をあげた。翌五日の日誌を見るに「自分では、それ程の駄作でもないとは思ふものゝ、さうしても蟲がをさまらないので、林や畑の方へ足が向いていつた、その間にひきつゝの家鴨あひうの話と思ひついた、それでやうやく、幾分か氣分の取返へしがついた！」と書いてゐる。七月十四日より八月二日の間、彼はプレヴェントヴェト村に遊ぶ、七月十六日「鴨獵」、七月二十六日「昨日より稚きはく鳥の稿を草す」。七月二十九日「過日獵のあつた森を訪ぬ」等々、「醜い家鴨の子」の構想に對する消息を傳へてゐる。それから西に海を渡つて、フューン島のスエンボに到つて、なほ稿を續けて、一年近く、此の海岸の町に休養してゐる。

た。十月七日の日誌に「稚いばく鳥の話を了す」。ミかいてゐる。實に起稿以來七十四日を經過してゐる。

この作は、彼の前半生を物語るもので、苦心して書上げた脚本「梨の木の中の鳥」から飛び立つて、彼自身の面目であつた、新しい物語の「はく鳥」に化したわけである。この作品のうちで、あひるの屋敷は彼の家郷オーデンセからコペンハーゲンに入つた幼少年期の敘述であり、沼澤地は勉學時代に當り、やもめ、婆さん、の家はいふまでもなく、親切なコリン一家の優遇である。この記念すべき家の挿畫の爲めには特にベダアセン氏も入念な筆を振つてゐるので、アンダアセン生前に得心の挿畫として感謝してゐるものを、忠實に複製して本稿に掲げさせていたゞいた。

第二は、全集の二十八番目にある「樅の木」で、あひるの子が彼の前半生の外貌を描き出してゐる後をうけて、内面的の心境を吐露したものである。この作品は一八四三年に、王室劇場でオペラの Don Juan を聞いて、思ひついたものを、其の晩のうちに書上げてしまつたミ、彼は手記してゐる。

あひるの子でかき盡せなかつた心事を、この樅の木に言はせて、前者を補足したものだミ見るこミが出来る。

第三がこの「亞麻」であつて、前記の兩篇を出してから、五ヶ年を經過した、一八四九年、彼の四十五歳の圓熟した筆で、自敘傳をこの短篇の中に、巧みに描いたものであるが、アンダアセンのものを兒童の讀物として翻譯しやうミすれば勢ひ僕に漏れて來たものミ思はれる。彼の手記によるミその誘因ミなつたものはその頃の北歐一流の作家の一人であつた、クリスチャン・ウインテルが、一八四八年に新しく出た「兒童の友」、Geisels 誌にかいた「わが姉妹たちの愁訴に寄す」ミいふ文中の「わたしは、もミは純真で、端麗な娘でありました」。ミいふ一句であつたミいつてゐる。

あらゆる悲境に處して、一片の疑雲の影すらも胸中にたゞよふこミなく、つねに光明にのみ向つてつき進んだ、アンダアセンの足どりミ、心境ミは卒直にこの亞麻の中に描出されてゐる。

更に越えて五年の後一八五五年、彼が五十歳の誕生日を迎へて、かの雄麗な自敘傳「吾が一生の物語」を書き上げてゐる。彼の生涯そのものが、すでに大きな美しいエヴェンチュアであつたのだと彼自身が、先づその筆の最初にかいてゐる様に、素晴らしい生涯を描いてゐる。多くの批評家が諸家の自傳中の白眉であるといつてゐるやうに、彼自らも一生をかへりみて、驚きの餘り、たゞ、その全生涯の幸福を神の榮光に歸してゐる。

「亞麻」はその大作の概念圖であり、「自傳」は「亞麻」の詳細圖である云ふこゝが出来る。

アンダアセン歿後六十年こゝに「亞麻」の邦譯を試みて我國文によつて讀む讀者の爲めに、彼の文豪の自傳前奏三部曲の一つを補ふこゝの出來たのは一つに、日本幼稚園協會の優遇によるこゝに厚く感謝の意を表します。

因みにこの譯は左の二つの原文に準據したものである。

コペンハゲンのギルデンダルス社版の一八九九年出版ウエルヘルム、アンダアセン博士の校定によるホ、シ、アナセン著作全集十二冊本及び同社一九二四年出版ハンス、ブリック及びアンカア、イエセン共編新校訂及解説附ホ、シ、アナセンのエヴェンチュア五冊本。

後者は先年アンダアセン五十年記念祭の當時丁抹國政府より寄贈された定本で日比谷圖書館の藏本になつてゐる。此の翻譯の爲めに特に借出されたものである。

アンダアセン原本の插畫家へダアセンの畫風を紹介す

アンダアセン得心の插畫を描いた Wilhelm Pedersen の鉛筆のやわらかいエッチングをこゝに紹介する。